放射線・防災教育　　南相馬市立太田小学校

キーワード：「体験的・実践的な学習」「関係機関との連携」「児童の学びのスタイル」

Ⅰ　研究について

１　はじめに

（１）　学校の概要

本校は、南相馬市原町区の最南端、福島第一原子力発電所から北北西約２１ｋｍの地点に位置する学校である。

平成２３年の東日本大震災では、津波の被害こそ幸い受けなかったが、その後の福島第一原子力発電所の事故による放射線の影響で、一時は本校を離れ、鹿島区八沢小学校、その後原町区大甕小学校で学習をし、平成２４年１月にようやく本校校舎に戻ることができた。また、学区の一部は居住制限区域及び避難指示解除準備区域（平成２８年７月解除）となり、１５０名近くいた児童も１／３近くに激減した。

（２）　放射線・防災教育について

【 学校として 】

①　現在、福島第一原子力発電所は廃炉作業が推し進められているが、万が一、再び事故が起きれば、本校へのさらなる被害が予想される。そのため、放射線への正しい理解を深め、どのように身を守るのか、どのように地域とともに歩んでいくのか等、より具体的で実践的な学びが必須となっている。

②　学校のすぐ裏に太田川が流れており、上流には横川ダムがあることから、本校は市内の学校で唯一避難所を開設できない学校となっている。昨年の台風１９号は夜間に通過したため、在校中の児童への影響はなかったが、もし児童が在校中に大雨等の気象災害に遭った場合は、的確な判断と迅速なる避難行動が必要となる。

【 授業実践として 】

重点実践事項「たくましく生きるための健康や体力の増進」に放射線教育を位置付け、学級活動を中心に、全学年、発達段階を踏まえた系統性のある指導を行っている。しかし、学習内容については、知識定着が中心となり、児童が主体的に学び体験的に課題を解決していく学習にまでは至っていない。また、学級活動と他教科等との関連が希薄で、単発的な学びになっている。

【 児童の実態 】

①　東日本大震災当時に幼少期、または震災後に出生したため、福島原子力発電所の事故や放射能等に関する諸問題について、ほとんど何も知らずに入学してくる。１年生からの放射線教育を通して、その特質や健康被害について指導をしているが、万が一の場合、どうのように行動すればよいか、具体的な場面を想定しての指導までには至っていない。

②　生活科や総合的な学習の時間で「学校のまわり」「自分たちの住んでいる地域や市町村」など地域の自然環境や、施設等については学習しているが、学校周辺の河川や用水路を題材に取り上げ、その危険性を学ぶ活動は行って来なかった。教科等の学びと防災学習を関連付けた取り組みが求められる。

【 保護者・地域の実態 】

平成３０年１２月、学校給食に市産米使用、平成３１年３月、校庭の除去土壌搬出作業終了等、放射線の影響が少なくなり、地域内の線量についても低値で落ち着いているため、地域全体として、放射線に対する意識が薄らいできているのが現状である。

また、令和元年１０月の台風１９号による大雨の影響で、地域を流れる太田川の堤防が数箇所で決壊し、床上浸水や農地への土砂流入などの被害を受けた他、本校の卒業生である地域住民１名が犠牲となっている。

２　目標

（１）放射線教育・防災教育の目標

○　身の回りで起こる自然災害や、放射線等に関する問題への取組み等に目を向けながら、未来を拓く地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身に付けるための支援を行う。

○　放射線等に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、身の回りで起こっている放射線に関する問題や現在行われている復興への取組を知り、地域社会の一員として安心・安全な生活の実現に向けて自ら考え、判断し、行動しようとする態度を育む。

○　防災学習や各種訓練等を通して、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時に自らの安全を確保したり自分の役割を自覚して行動したりするなど、自ら考え、判断し、行動する力を育成する。

（２）目指す児童像

低学年	○　放射性物質の存在がわかり、それらに気を付けて生活できる児童 ○　自然の恵みと地域の危険性について理解し、災害から身を守れる児童
中学年	○　放射線の性質を知り、外部被ばく・内部被ばくをしないように注意しながら心身の健康を守ることができる児童 ○　洪水災害に関する現象について理解し、災害から身を守る行動がとれる児童
高学年	○　身の回りの放射線量を知り、身体への影響に気を付けながら心身の健康を守ることができる児童 ○　放射線による風評被害やいじめ問題等を理解し、自分でできることはないかを考え、実践しようとする児童 ○　自然環境の恵みと災いについて考え、日頃から災害に備えておくことを理解して行動できる児童

（３）目指す教師像

○　放射性物質について深い知識をもち、科学的根拠を基にして客観的な立場から指導ができる教師
○　自然の「恵み」と「災い」の両面を理解し、地域を大切にする郷土愛を育ませるとともに、災害から生き抜く力を身に付けさせることのできる教師
○　体験的な活動を通して児童が自ら考え、解決し、発信していく学習を積極的に展開していく教師

３　研究内容・方法

放射線・防災教育の実践に向けて

（１）指導内容

低 学 年	中 学 年	高 学 年
○　放射線、放射性物質の存在を知る。 ○　放射性物質のある所に近付かないようにする。 ○　放射性物質が一度に大量に放出されたときの避難の仕方を知る。 ◇ 大雨が降ったときの危険性を知る。 ◇ 大雨が降ったときの身を守る行動を知る。 ◇　洪水が起こったときにの避難の仕方を知る。	○　放射線の性質を知る。 ○　外部被ばくや内部被ばくをしないための生活の仕方を考える。 ○　放射性物質が一度に大量に放出されたときの避難の仕方を知る。 ◇　雨の降り方や洪水について知る。 ◇　洪水から町を守る対策について知る。 ◇　洪水ハザードマップを用いて避難先を調べるなど避難の仕方を考える。	○　身の回りの放射線量を測定し、どのように気を付けて生活するかを考える。 ○　放射線に関する風評被害やいじめ問題等を知り、どのように解決すればよいか考える。 ○　放射性物質が一度に大量に放出されたときの避難の仕方を知る。 ◇　洪水に対する日頃からの備えを知る。 ◇　川からの恵みと災いについて考える。 ◇　状況に応じた具体的な避難方法を考える。

（２）指　導　方　法
①　放射線教育

１・２	学活	○　東日本大震災、津波、原発事故を知る。	○　原発事故、放射線について知る。	○　放射線に関する言葉を覚える。	○　放射線に関して、詳しく知る。	○　震災や原発事故を踏まえ、家族へのお手紙を書く。
	関連	【道徳科】敬愛・つながる思い　　○　自分が家族からの愛情によって守られていることに感謝する。				

3・4年	学活	○　東日本大震災、津波、原発事故を知る。	○　自然界からの放射線を知る。	○　放射線の特質を知り、外部被ばく内部被ばくを知る。	○　放射線の様子を観察する。	○　放射線について、学んだことを壁新聞にまとめる。
	関連	【国語】○〔じょうほう〕引用するとき　３年 ○　調べて話そう、生活調査隊　４年				
5年	学活	○　東日本大震災、津波、原発事故を知る。	○　放射線の計測の仕方を知る。	○　放射線を測定し、校地内のマップを作成する。	○　震災直後と、最近の放射線量を比較する。	○　校地内マップ、放射線の高低が分かるグラフを作成する。
	関連	【国語】　○　グラフや表を用いて書こう 【社会・理科】　○　体験活動や実験等を通して、放射線への理解を深める。				
6年	学活	○　東日本大震災、津波、原発事故を知る。	○　風評被害について知り、感じたことを話し合う。	○　風評被害について、どうすればよいか考える。	○　風評被害をどのように防いでいくか討論する。	○　風評被害解消に向けて、パンフレットを作る。
	関連	【国語】　○　具体的な事実や考えをもとに提案する文章を書こう。 【社会・理科】　○　体験活動や実験等を通して、放射線への理解を深める。				

（2）指　導　方　法
②　防災教育

1・2年	学活	○　大雨が降ったときの危険性を知る。	○　大雨が降ったときの身を守る方法を知る。	○　洪水が起こったときの避難の仕方を知る。
	関連	【生活】○　夏の気候や土、水、雨などを利用して遊びを工夫することができる。（１年） ○　学校内の安全な場所、危険な場所を知る。避難訓練について知る。（１・２年） 【体育】○　プールの使い方や決まりを守り、水遊びの楽しさと水の危険を知る。（１・２年）		
3・4年	学活	○　雨の降り方や洪水について知る。	○　洪水から町を守る対策について知る。	○　洪水ハザードマップを用いて避難先を調べるなど、避難の仕方を考える。
	関連	【社会】○　太田川の様子を知り、川の恵みによって地域の農業が発展してきたことや、洪水によって人々が苦しめられてきたことを知る。（３年） ○　洪水の際の消防署や消防団、市役所の諸活動について調べる。（４年） 【体育】○　着衣泳で服を着たまま水に入ってしまった場合の対処の仕方を学ぶ。（３・４年）		
5・6年	学活	○　洪水に対する日頃からの備えを知る。	○　川からの恵みと災いについて考える。	○　状況に応じた具体的な避難方法を考える。
	関連	【国語】○　防災訓練を特集したニュースを作る。（５年） ○　南相馬市の良さを伝えるためのパンフレットを作る。（６年） 【社会】○　日本の地形等から災害の特徴を知る。（５年） ○　住民の願いとそれを実現する政治の働きについて関心をもって調べる。 【理科】○　流れる水の働きを知る。（５年）　台風について知る。（５年） ○　生物は食物・水・空気を通して、周囲の環境と関わって生きていることが分かる。（６年） 【体育】○　着衣永で服を着たまま水に入ってしまった場合の対処の仕方や救助の仕方を学ぶ。（５・６年）		

（3）手　だ　て

○　安全教育・放射線教育担当を中心とした校内体制を組織し、系統的な指導を展開することにより、学びの積み上げを図る。
○　放射線・防災教育と各教科等との関連を明確にした、教科等横断的な指導計画を策定する。
○　各学年、学級活動に８時間以上、放射線教育・防災教育を位置付け、学習段階を「原発事故を知る・放射線を知る・地域の危険性について知る」「体験する・どうすればよいか考える」「学んだことを発信する」のスリーステップ式にする。
○　関係団体と連携し、体験的な学習、実践的な学習を積極的に展開する。
○　児童の学びを地域・家庭へ積極的に発信し、地域全体で安全についての意識の高揚を図る。
○　福島第一原子力発電所の事故及び太田川の氾濫を想定した避難訓練・引渡訓練を実施する。

Ⅱ　研究の実際について

授業テーマ

大雨が降ったときの避難の仕方を知り、洪水が起こったときの避難方法について理解を深めることができる授業

第２学年　　学級活動（２）指導案

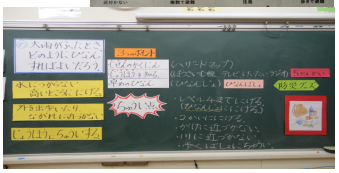
令和２年１１月２７日（金）
５ 校 時　第２学年教室
指 導 者　佐藤真紀子

1　題材
「洪水が起こったときの避難の仕方を知る。」
学級活動（２）ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2　本時のねらい
・　大雨により洪水が起こった場合を考え、より良い避難の仕方を知ることができる。

3　指導過程

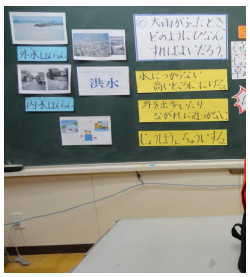
活動の流れ	時間（分）	○指導上の留意点　・手だて　※評価
1　大雨が降ったときの身を守る行動を復習させ、学習のねらいを伝える。 ㋮大雨がふったとき、どのようにひなんすればよいだろう。	5	○　大雨が降ったときの身を守る行動には、「水につからない高いところに逃げる」「外を出歩いたり、流れに近づかない」「情報に注意する」が大事だったことを復習する。 ○　本時では、大雨が降ったときに、どのような避難の仕方をすればよいかを考えていくことを伝える。
2　どのようなときに避難するかを確認する。 （１）身を守る３つのポイントを知る。 ・事前の確認（ハザードマップ）。	１５	○　どのようなときに避難することになるかを３つのポイントで確認させる。 ○　地域の洪水の危険性や避難場所を知るために、ハザードマップがあることを教え、南相馬市のハザードマップを見せる。 南相馬市のハザードマップを見せ、自分の家の場所がどうなっているかを確認させた。また、避難場所がどこにあるかも確認させた。
・情報入手 ・早めの避難 		○　大雨の情報を知る方法には、テレビ・防災無線・緊急速報メール等があることを確認する。 ・　「５段階の避難情報の図」を示して、避難情報には５段階あることを教え、避難のタイミングを知ることが大事であることを確認する。また、自分の家の避難場所をハザードマップで確認させる。 避難情報について、福島県の「防災ガイドブック」と「５段階の大雨警戒レベル」を見せて説明した。
（２）「避難情報の内容」と「避難場所」を知る。	１５	○　避難するときに注意すべきことには何があるかを考えて、発表させる。 ※　避難時の注意点を考え、意欲的に発表することができたか　　（観察）



「防災ガイドブック」に示されたチェックポイントと児童が発表した注意点の板書

・５段階の避難情報
・自分の家の避難場所

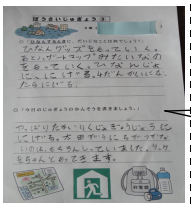
○　避難するときに必要となる防災グッズを知り、非常時にすぐ持ち出せるようにしておくことが大事であることを確認させる。



3　避難をするときに注意することと、必要な持ち物を知る。
（１）避難時の注意点を考え発表する。
・しなければいけないこと
・してはいけないこと
（２）防災グッズを知る。
・食料や日用品
・感染症対策
・防災用品

避難するときに必要なものを考えさせ、実際に「防災グッズ」の中身を取り出して見せて、説明した。

4　学習して分かったことを確認する。　１０



○　ワークシートに、避難するときに大事なことと、授業の感想を書かせ、発表させる。
※　学習で分かったことを書くことができたか　（ワークシート）

学習して分かったことを書いた児童のワークシート

4　成果と課題

○　本時のめあてを提示する前に、今まで学習してきた「大雨が降ったときの身を守る行動」を復習させたことにより、「実際に災害が起きた時にどのような避難をすべきか」という本時のねらいに興味をもたせることができた。
○　南相馬市のハザードマップを映像で見せたことにより、児童の家の周りを拡大して見せることができたので、自分の家が浸水範囲に入っているかどうかを確かめることができた。児童は、ハザードマップに高い関心を示していた。また、避難場所についても映像で示したことにより、どこの避難所が近いかを知ることができた。
○　避難情報については、福島県で出している「防災ガイドブック」から必要な部分を映像に取り込んで見せたため、一人一人が本を開いて見るより、集中して話を聞くことができた。さらに、「５段階の大雨警戒レベル」を提示し、実際に洪水の様子を見せたことは、児童に避難の重要性と緊迫感を実感させることとなり、有効であった。
○　「防災グッズ」については、実際に家にある児童が少なく、何が必要かも分からない児童が多かった。そのため、実際に必要となるものを見せ、それらが何のために必要なのかも説明した。このことにより、児童は防災グッズの必要性を感じていた。
○　授業の最後に、学習して分かったことをワークシートに書かせたが、しっかり書けていた子が多かった。このことから、本時の授業に興味をもって聞いていた児童が多かったと考えられる。
●　本時の授業は授業参観という形で行われていたので、自分の家の避難場所を保護者と児童が一緒に話し合い、確認する時間をとれればよかった。
●　本時の授業は、教師側で教えていく内容が多かったので、児童が疑問に思ったことや知りたいことを聞く時間をどこかにとればよかった。
●　洪水についての授業を３回行ってきたが、こうした災害がいつ起きても大丈夫なように、常に児童に関心をもち続けさせることが必要である。

授業テーマ

洪水の危険性が高くなった場合の避難のあり方や、日頃からできる備えについて考えを深めていくことができる授業

第４学年　学級活動（２）指導案

令和２年１１月２７日（金）
５校時　　第４学年教室
指導者　　伊藤朱音
授業協力者　山崎麻里子
（３．１１伝承ロード推進機構）

１　題材

「洪水から身を守る対策や避難のあり方を知る」

学級活動（２）ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

２　本時のねらい

洪水の危険性が高くなった場合の自分の安全の確保と役割について考えることができる。

３　指導過程

学　習　活　動	時間	○指導上の留意点　・手だて　※評価
１　前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ・洪水の発生する仕組み・大雨の時期 ・大雨の時に洪水の他に起こる現象について（停電、落雷、渋滞など） ㋮　大雨が降り続いたら、どのような行動をとればよいのだろう。	５	○　今まで学習したことを確認する。 ○　学習したことを黒板に掲示し、学習課題への意識を高める。
２　自分の家にいる時に、太田川が氾濫したらどうするか考える。 ・　太田川の周囲の様子 ・　自分の家の周囲の様子 ・　ハザードマップの必要性 ・　天気予報や市町村から情報 ・　二次被害の危険性 防災の専門家であるゲストティーチャーが、電子黒板を使い、詳しく説明してくださった。	１５	○　太田川が氾濫した時の太田地区の様子について考えさせる。（堤防の決壊） ・　太田地区の地図を見て、浸水しそうな場所に色を塗らせる。 ○　自分の家の周囲の様子について考えさせる。（土地の高低差　・土砂崩れの危険性） ・　ハザードマップに、自分の家の場所を確認させ、ハザードマップの必要性に気付かせる。 ○　防災の専門家であるゲストティーチャーの説明を受けることを知らせる。

３　水害に向けて日頃からできる備えを考え、発表する。 ・　家族で考えておくこと	１５	○　大雨の時の自分の行動や、日頃からできる備えについて考えさせ、ワークシートに記入させる。 ※　大雨が降り続いたときに、注意すべき事柄が分かり、安全な行動について発表することができたか。
４　学習を振り返る。	１０	○　学習して感じたことを書かせ、発表させる。 ○　疑問に思ったことを、児童からゲストティーチャーに質問させることで、水害対策についての関心がさらに高まるようにする。

４　成果と課題

○　始めに、写真を提示しながら、前時まで学習したことを振り返ったことで、本時の活動に見通しをもって取り組むことができた。

○　お家の人と一緒に、自分が住んでいる地区のハザードマップを見て、浸水想定区域や土砂災害危険箇所などを確認したことで、自然災害による被害について話し合うことができた。

○　防災の専門家であるゲストティーチャーに詳しい説明をしていただいたことで、疑問に思ったことを質問するなど、水害対策についての関心を高めることができた。

●　児童は、災害が発生した際の、自分の避難場所が分からなかった。避難場所が分かりやすく示されている地図を提示したり、お家の人に聞いたりすればよかった。

●　児童は、「災害時は、避難をすることが大切」と心に残ったようであるが、垂直避難をした方がいい場合や水平避難をした方がいい場合について、詳しく取り扱うとよかった。

授業テーマ

外部被ばくと内部被ばくについて実感を伴って理解することで、安心して日常生活を過ごすための方法を学び、自分にできる行動を発信することができる授業

第５学年　　学級活動（２）指導案

令和２年１１月２７日（金）
５校時　第５学年教室
指導者　中島　慎輔
協力者　鳥取大学　北　実
　　環境再生プラザ

１　題材

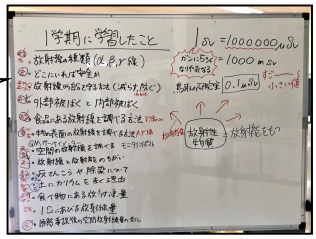
「食品の放射線量を測定することを通して学んだ基本的な知識が、安全を確かめることや安心につながるということを発信しよう」

学級活動（２）ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

２　本時のねらい

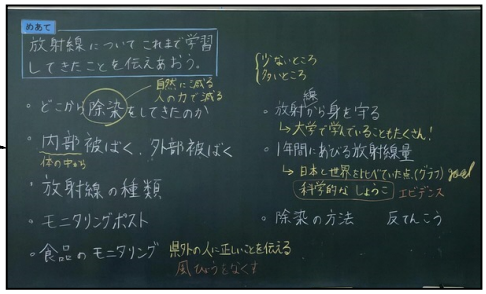
これまで学習したことをまとめた資料を紹介し合い、学びを振り返ることができる。

３　指導過程

学　習　活　動	時間	○指導上の留意点　・手立て　※評価
１　本時のめあてをつかむ。 ㊙ 放射線についてこれまで学習してきたことを伝え合おう。  １学期から学習したことを箇条書きにして掲示したホワイトボードも参考にしながら、学習を振り返った。	５	○　今年度学習してきたことを振り返り、学びを深めてきたことを確かめさせる。 ○　本時では、放射線についてこれまで学習してきたことを発表し合い、まとめの冊子作りをすることを伝える。
２　放射線についてまとめたことを紹介し合う。 （１）児童の発表 （２）発表に対する北先生の講評 被ばくの種類や放射線量の推移など、学習したことをわかりやすく伝えるための資料を作った。	２５	○　テーマ設定の理由を発表させることで、資料作成の目的を明確に伝えられるようにする。 ○　児童が作った資料を電子黒板に投影し、細かい部分まで確認できるようにする。 ・　資料の詳細までわかりやすくするために、ロイロノートを用いて発表させる。 ※　作成した資料の内容を、わかりやすく発表することができた。（観察）

・　Zoom を利用し、児童が作成した資料を北先生と共有したり、話したりしながら授業を進める。

iPad を操作しながら、作成した資料の内容を発表する様子。Zoom を利用して北先生にも見ていただいた。



１人１人の発表に対して、北先生からお話をしていただいたことをまとめていった。

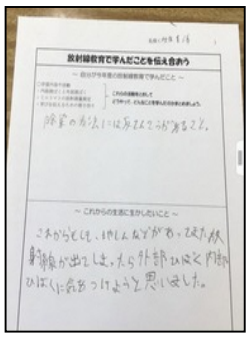
３　学習して分かったことを振り返る。

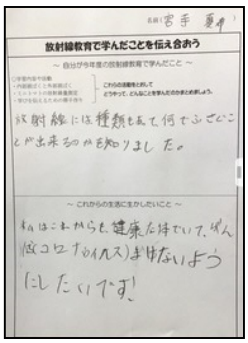
・ワークシート
・発表
・冊子用の資料や表紙作り

１５

○　ワークシートに「今年度の放射線教育で学んだこと」を書かせ、発表させる。

※　学習を振り返って、自分ができる行動について書くことができる。（ワークシート）





学習したことやこれからの生活に生かしていきたいことをまとめることができた。

４　成果と課題

○　放射線について、５年生で学習していきたい内容である「測定」に関して、空間放射線量だけでなく、食品という観点からも学習を進めることで、外部被ばくだけでなく内部被ばくについても理解を深めることができた。
○　食品中に含まれる放射性物質の測定については、地域との協働により、子どもたちの身近な場所でも測定が可能であることを実感させることができた。
○　国語科では、資料を用いた文章を作成する学習と関連させたり、iPad を利用した資料編集や発表をしたりすることで、教科横断的な学習を行うことができた。また、ロイロノートの活用により資料の増刷が容易になった。
○　鳥取大学の北先生や環境再生プラザの方々に全面的に協力していただいたおかげで、オンラインを併用した学習でも学びを連続させることができ、放射線についての学習を深めることができた。
●　１人１人の発表に対して、北先生は丁寧に話してくださり、その内容を黒板に残したが、それを基に子どもから質問をしたり話し合わせたりすることができなかった。時間もなかったため、発表内容を限定する必要があった。
●　iPad でオンラインの公開授業をしながら、鳥取大学の北先生ともオンラインでつないだ授業となり、画面や音声の接続などのセッティングに課題が残った。

＜学校全体及び校外における実践＞

１　福島第一原子力発電所の事故を想定した引き渡し訓練（全学年　行事）

⑴　日時：令和２年１２月４日（金）５校時
⑵　実施目的
①　非常事態（地震、原発事故の恐れ）が発生した場合を想定し、正しい避難の仕方と難経路を知り、生命を守るために児童自ら考えて行動できるようにする。
②　地震などの非常災害発生に際して、全職員の任務・分担を明確にし、実際の訓練を通して不慮の災害に備える。
③　保護者への児童引き渡しを素早く確実に行えるようにする。
⑶　想定
○　大地震発生
○　原発事故の恐れあり
⑷　実際の様子
①　大地震発生
・　机の下などに身を隠し、身体を守る。
②　福島第一原子力発電所の事故の建物に被害があり、放射能が漏れ出す恐れがある。
・　放射線から身を守る行動をとる。
〔窓をしめ、エアコンや換気扇を切る。
肌を出さないよう服装を整える。
口を覆うものを準備する。〕
③　福島第一原子力発電所の事故から放射能が漏れ出す危険はない。
④　地震により校舎に被害が出ているため、校庭へ避難する。
⑤　保護者への引き渡しを行う。

【保護者への引き渡し】

２　コミュタン福島への体験学習（３年生　社会・理科）
※Ⅳ資料２放射線教育年間計画
⑴　日時：令和３年　２月１８日（金）１０：００～１３：３０
⑵　実施目的
①　東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故、そして放射線災害に関する展示を見学することで、過去から現在に至る福島県の現状について理解を深めることができる。
②　放射線に関するワークショップに参加し、放射線の性質や健康被害などについて体験を理解することができる。
⑶　実際の様子
○　見学学習
・　ふくしまの３．１１から
・　ふくしまの環境のいま
・　放射線ラボ
・　環境創造シアター

【放射線の説明を受ける】

３　リプルンふくしまへの体験学習（１年生、２年生　生活科）
※Ⅳ資料２放射線教育年間計画
⑴　日時：令和２年　９月２日（水）１０：００～１１：３０
⑵　実施目的
①　福島第一原子力発電所の事故によって放射性物質に汚染された土壌や廃棄物が発生したが、それらが万全な安全対策の下で保管されたり、処分されていることを知る。
②　放射線の性質や放射線の影響を小さくする方法についての理解を深め、放射線から身を守る行動ができるようにする。
⑶　実際の様子
○　見学学習
・　放射性廃棄物と放射線のちがい
・　廃棄物の種類
・　放射線から身を守る行動について

【展示物の見学】

４　教育講演会

演題　「 家族・学校・地域の防災　」
講師　一般社団法人３．１１伝承ロード推進機構　山崎　麻里子 様

⑴　日時：令和２年１１月２７日（金）１４：５０～１６：１０

⑵　参加者　本校授業研究会参会者　教職員　保護者

⑶　内容
　○　全国で起こった様々な災害を例に、災害が起こるメカニズムと避難時の課題について。
　○　ハザードマップの必要性や災害への備えについて。
　○　避難の仕方について家族での確認することの重要性について。

５　太田川の見学学習（５・６学年　総合的な学習の時間）
⑴　日時：令和２年６月２９日（月）１０：００
⑵　実施目的
　○　昨年、水害があった地域を流れる太田川の堤防などの様子を見て、大雨が降った場合の水害の可能性を理解する。
⑶　実際の様子

【堤防を見学する様子】

Ⅲ　成果と課題について

1　成果

○　放射線教育・防災教育と各教科等の関連を明確にした年間計画を策定し、指導事項を「知る」「体験する」「発信する」の３つに分けた段階的な指導をしたことで、各学年間の内容の系統性・発展性が明らかになった。これにより、広がりのある学びやより深い学びにつながった。

○　震災時に幼少期、または震災後に出生という児童の実態を踏まえ、東日本大震災から福島第一原子力発電所の事故、そして復興に向けての取組という一連の流れを大切にして、発達段階に応じた体験的・実践的な指導を展開した。今まで何気なく聞いていた「放射線」や「原発」といった言葉を確かな知識とし、各問題を自分の事と受け止めて考えたり行動したりできるようになった。

○　南相馬市役所、環境再生プラザを中心とした関係機関との連携を深めるとともに、コミュタン福島やりぷるん福島等の施設を積極的に利用することで、専門的な指導による質の高い授業実践が可能となった。また、実際に指導する本校教員についても、豊富な教材や資料、実践的な機器などを活用することができ、様々なアドバイスをいただいたことで、指導力の向上につながった。

○　保護者等、多くの方が授業に参加し、過去の状況から現在に至るまで、様々な視点から説明をいただいたり、資料をいただいたりした。児童は、自分たちが地域の一員として生活していることを改めて実感し、これから自分に何ができるか等を深く考えるきっかけとなり、地域への愛着を高める一因となった。

○　福島第一原子力発電所の事故を想定した避難・引き渡し訓練を実施した。南相馬市の「原子力災害が起こったら…」「原子力災害から身を守る！」を基にしながら、放射線から身を守るためにどのように行動したらよいのかを実践を通して学ぶことができた。来年度以降も継続して実施していくことで、自ら考え判断し行動できる児童の育成を目指していきたい。

○　今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる講師からの指導を受けたり、公開授業をオンラインで行ったりした。オンラインによる、関係者や関係機関との情報の伝達の方法や可能性が広がった。

○　アンケートによると、「防災とはどのようなことかわかる。」が５月は５割ほどだったのが、１月は９割ほどになった。「ハザードマップを知っていますか。」が５月は１割もなかったが、１月は９割ほどになっており、防災に関する知識を身に付けることができた。

2　課題

●　放射線教育・防災教育の実践について、各種便りやＨＰ等で広く情報発信をし、１１月には保護者の直接参加とオンライン参加の授業を全学年で行った。参加された方々には、放射線教育・防災教育の意義を知らせ、その必要性をご理解いただけたが、ごく限られた方の参加に留まるなど、地域全体としての関心は未だに低い現状がある。

●　放射線教育・防災教育への取組や児童の学習の様子等、今後も継続的に情報発信をし、保護者・地域へ啓発を図るようにする。さらに、児童からの発信をより重要視して、一番身近な家族へ、そして地域へ、他県へと段階的な発信体制を整え、相互の交流をより活発化できるようにする必要がある。

●　自然災害では、想定を超える災害が起こる可能性があり、自ら危険を予測し回避するために、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動をとることが必要である。そのために、日常生活において状況を適切に判断し最善を尽くそうとする態度を身に付けさせることが重要である。

●　防災に対する資質・能力は防災教育全体を通じて育成したい。指導すべき防災教育の資質・能力を明確にし、教科等に内容をどう位置付けるかを示し、カリキュラム・マネジメントを進めていきたい。

●　アンケートによると、「災害時の連絡方法は決まっていますか。」の質問に対し、「決まっていない」と回答した家庭が１月時点で５割ほどであった。また、「家族の集合場所は決まっていますか。」の質問に対し、「決まっていない」と回答した家庭が１月時点で３割ほどであったことから、今後、家庭への情報の発信や働きかけが課題である。